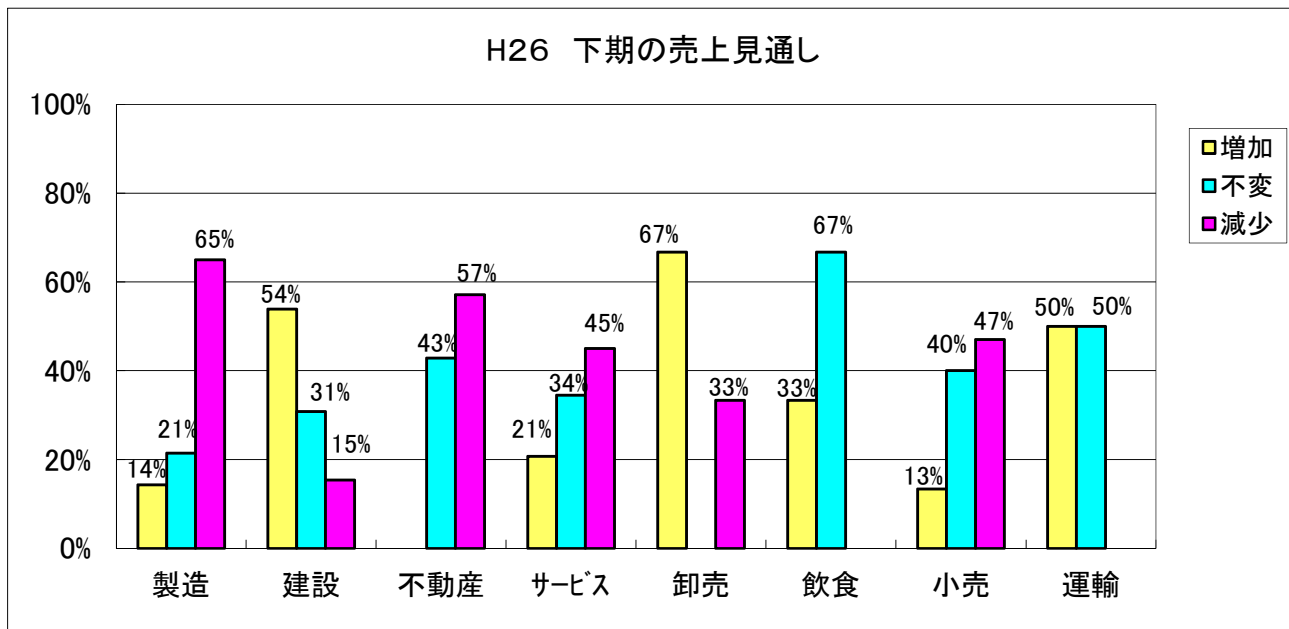


**調査2** 平成26年1月～6月を水準とした平成26年7月～12月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

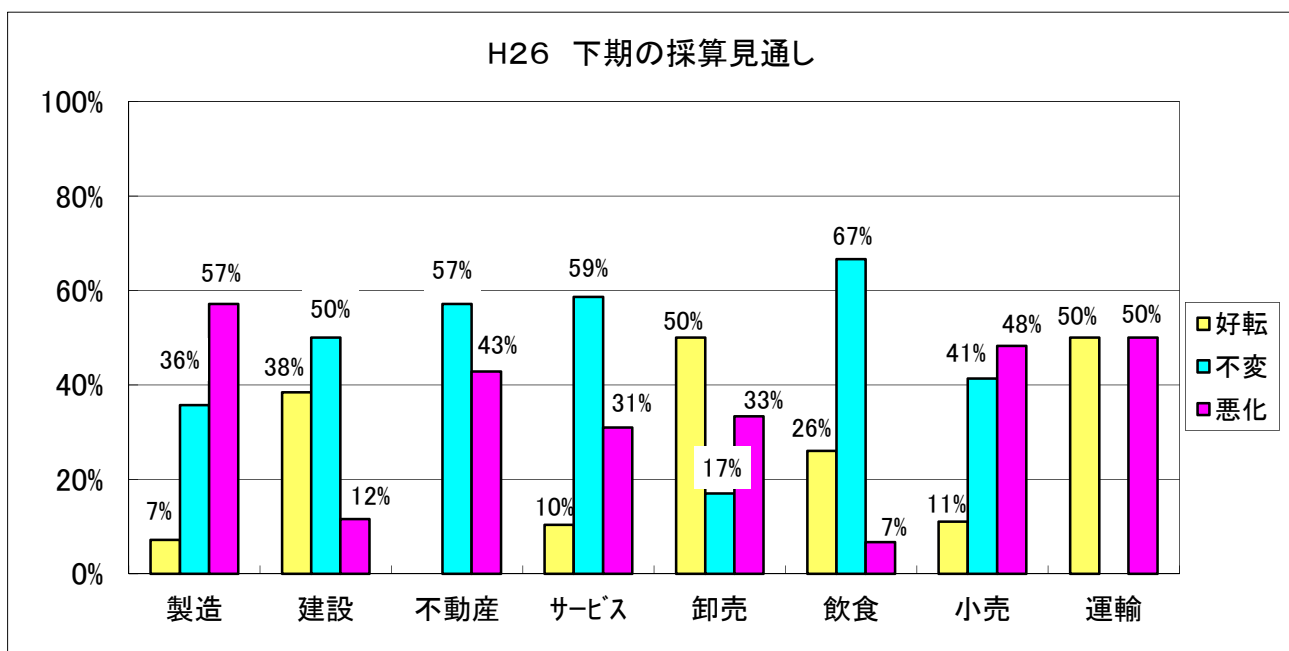
**①売上見通し**

全体で見ると「増加」31%（前回32%）、「不変」36%（前回50%）、「減少」33%（前回18%）となった。業種別で見ると「増加」する見通しが多かった業種は、卸売業（67%）建設業（54%）運輸業が（50%）で、その他の業種は、厳しい見通しであった。



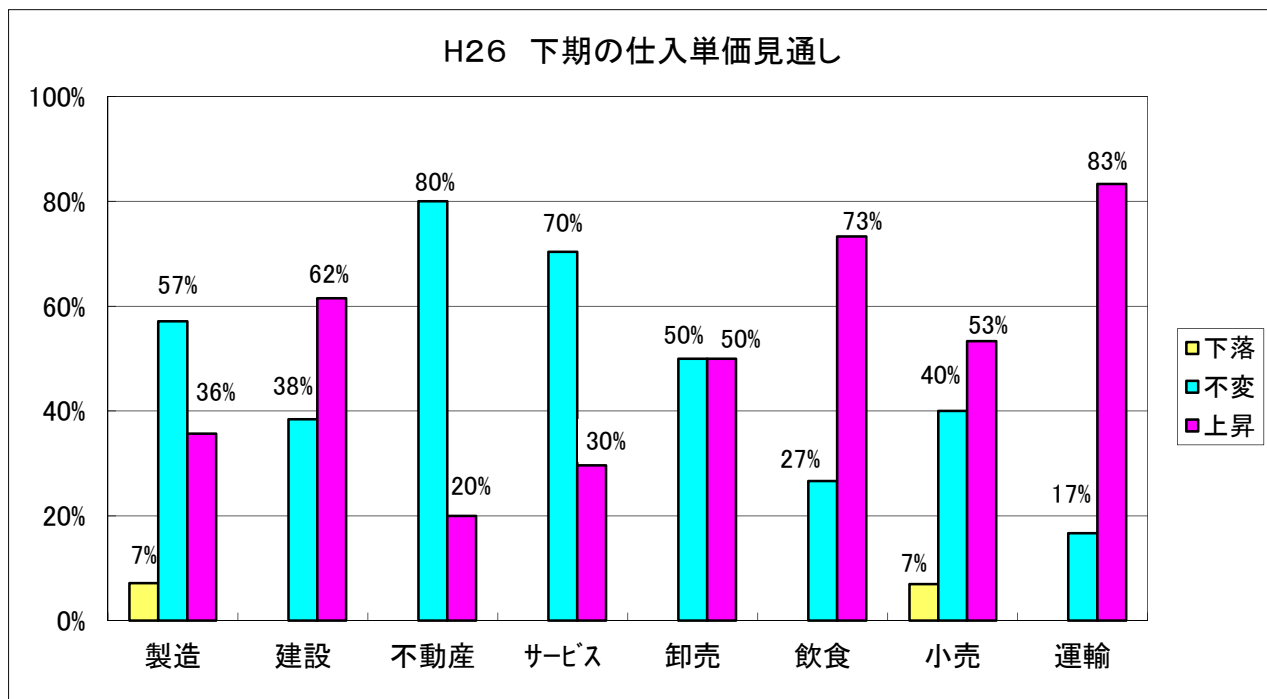
**②採算見通し**

全体的にみると、「好転」が24%（前回20%）、「不変」が41%（前回58%）、「悪化」が35%（前回22%）となった。卸売業が採算見通しが「好転」との回答が多かった。一方、「悪化」の見通しが高いのが製造業、運輸業、小売業であった。



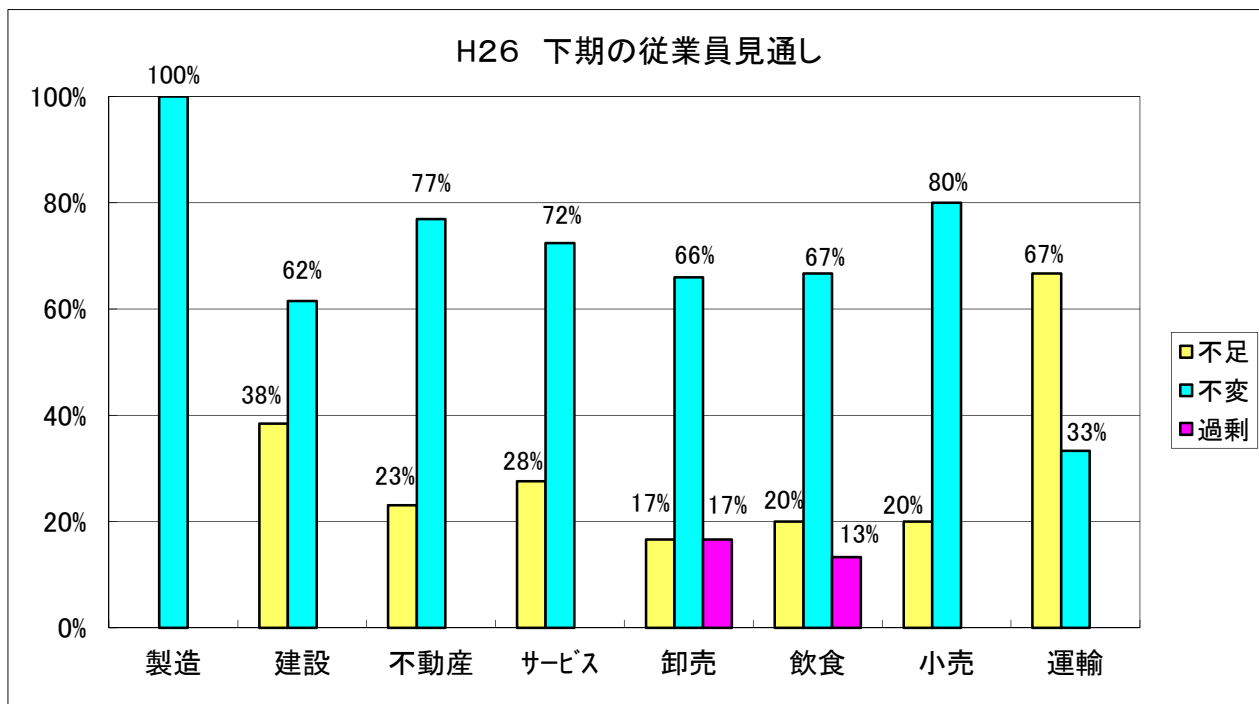
### ③仕入単価の見通し

仕入単価については、運輸業が83%「上昇」と回答している。続いて、飲食業(73%)、建設業(62%)と続いている。原油価格や資材の高騰がみられる。



### ④従業員の見通し

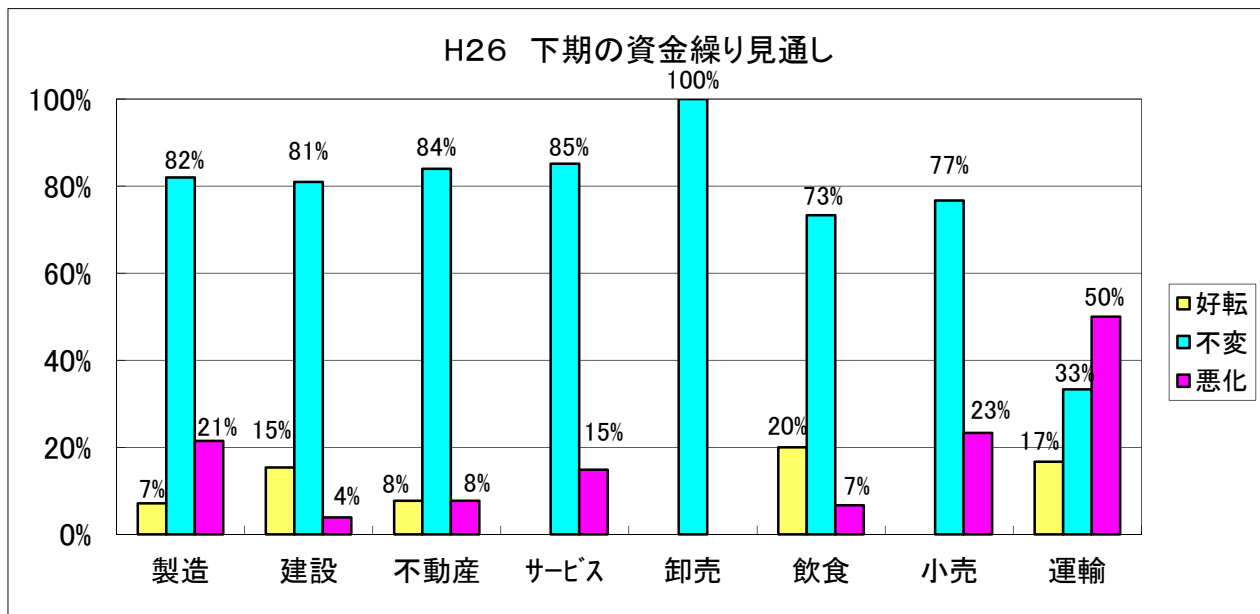
「不足」との回答が多かったのは、運輸業67%(前回33%)、建設業38%(前回42%)で深刻な人手不足になっている。



⑤業界の景気動向見通しについて  
P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

資金繰りの見通しで「悪化」が多かったのが運輸業で50%であった。その他の業種では全体的にあまり変わらない見通しである。



⑦金融機関の融資状況見通し

融資状況の見通しで「厳しい」が多かったのが運輸業の50%であった。それ以外は、「緩やか」及び「不変」との回答が多かった

